

ぼろしり

東北遠征登山《八甲田山》



早くから青森入りし、他の山を登っていた小野さん（さいたま市）と合流。夜は再会の夕食会で盛り上がる。翌日、八甲田山の岳組の出発を見送り毛無岱組はロープウェイの運行を待ったが強風により運行停止。テントを撤収して城ヶ倉温泉分岐から上毛無岱まで進むも強風。ウメバチソウや花が

台風18号の接近により2パーティーの行動は大幅に制限され、各リーダーは対応に追われる山行だった。前日、青森で川口市からの野村さんと合流。酸ヶ湯キャンプ場で

終わったチングルマを高山先生に教えてもらう。大岳組が心配だが下山している連絡が入り、こちらも下山して酸ヶ湯温泉登山口に戻る。



大岳組は順調に整備された登山道を地獄湯の沢、仙人岱（高層湿原）と進んで来たが、霧が濃く雨具を着用する。樹林帯（森林限界）を越えると強風とガレ場の登り、山頂はケルンの影で風を避けるもサングラスや

帽子を飛ばされる。ほぼ風との戦いで有り、ロープにしがみつき、風の呼吸の隙間を縫って進む状態だった。一瞬だったが酸ヶ湯方面の景色が見られたのは良かった。下山後、翌日のフェリーが欠航の可能性も有り、リーダーがフェリー会社数件に連絡を取り、手を尽くした結果、当日のフェリー乗車を確保。台風通過前、函館に18時45分着。

夕食を取った後、大沼インターから高速を飛ばして22時40分苫小牧に無事帰り

着くことが出来た。深夜に及んだ岐路、2台の運転手には辛い一日となった。お疲れ様でしたと言いたい。

台風により散々な山行となったが、埼玉からの二人の会員が参加しての八甲田山集合。すばらしい交流登山となり、今後このような山行が何年かおきにあっても良いのではないかと書きながら思った。

記念登山会 《猿留山道》

今回も台風20号の接近で危ぶまれた。前日閉鎖されているアポイのキャンプ場に



たき火等しないことで許可を取り利用させてもらう。この日も雨の中テント設営。夕食は、林会長差し入れの鹿肉ステーキとすき焼きの豪華版だった。翌日もあいにくの霧雨模様。スタート地点にある豊似湖は、霧

雨に煙っていたが、紅葉が湖の水面に映り幻想的であった。しかし馬頭観音の石碑がある峠に上がるまで雲に覆われ、山道上からハ

ト型の湖を眺めることは出来なかった。



当初はそこから観音岳に登る

予定だったが、視界も悪く、山頂からの展望も望めないことからリダー判断でここを今日の最高地点として下山を決める。

下山途中、湖の入口付近で登りにも鳴き声を聞いていたナキウサギの姿を目にする事が出来た。下山後は、アポイジオパークを見学後、入浴とアイスクリームセット券(600円)を購入してゆつくりと入浴を楽しんだ。

《例会予定》 開始時間18:30

- ◆12月10日(日) ◆
- 1/14新春登山(紋別岳) 最終打ち合わせ
- 1/28冬山研修(徳舜警岳) 打ち合わせスキー&スノーシュー
- ◆1月14日(日)
- 1/28冬山研修(徳舜警岳) 最終打ち合わせ

《納会》案内

- ◆日時:平成29年12月2日(土) 午後6時から午後8時まで
- ◆会場:中善
- ◆会費:4000円(飲み放題)
- ◆締切 11月25日返信はがき必着

《事業予定》

- ◆12月2日(土) 納会(会場:中善)
- ◆12月3日樽前山西山(シシャモナイコー) 担当:泉田、田中勝
- ◆1月14日新春登山(紋別岳) スノーシュー 担当:芳賀、林昇
- ◆1月28日冬山研修(徳舜警岳) スノーシュー&スキー 担当:泉田、鈴木健
- ◆2月17日~18日スキーツアー(ニセコ) 担当:田中勝、新井孝

《インク・ノット》

登山の楽しみの中に山野草や高山植物の花を見る楽しみもある。しかし、コケを見て楽しむ登山者はいない。なぜかと考えると、まず花がない。地味である。コケは分からない、のである。確かにコケを知ろうとする人は少ない。ただ、最近はお花や育てる人も増えてきた。そのコケに半年前

から挑戦してみた。

樽前山にも高山植物に混じって、コケ、シダ類、地衣類等とよく見ると多種多様に分布している。コケに絞ってみると世界では17000種、日本では、1700種、樽前山麓では80種以上があるとされている。そう考えると樽前で見られる高山植物の種類に匹敵するのではないか。取りあえず、コケとは何か、コケ図鑑なるものを購入して探ってみた。

まず分かったことは、一般の植物や樹木のように土中から根で水分を吸っていないことが分かった。土、岩(石)、木、コンクリートなどに張り付くための根(仮根)はあるが、水分を吸い上げる役目ではないのだ。では、水分補給はどうしているのか。それは、雨、霧や大気中の水蒸気(湿気)から葉によって吸収されている。そのため、雨が降らずに乾燥が続くとコケは自身の水分量を調整に入り、最終的には人の目には枯れたような状態にもなる。太陽の日が直接当たり水分が失われそうになると葉を閉じ、水分の蒸発を防御する。日が陰り、雨が降り出すとすぐに葉を広げて水分を取り込む。支笏湖岸やウトナイ湖岸の砂地のところには小さなエゾスナゴケが見られる。その群落に霧吹きを掛けてあげると1分もしない間に星形をした葉を開き水分補給をする。観察していくと似ていてもそれぞれのコケの特徴が見えてくる。そうなるコケにはまっている証だ。ルーペを小さなコケに近づけて見ると花咲く植物とは別の世界がレンズを通して見えてくる。まだ入口に立つただけ。当面この世界から抜け出せそうもない。